

港北区に暮らし続けたいと思える地域づくりの第一歩を歩みだそう

港北区長 遠藤 包嗣

平成16年度から2か年をかけて区民の皆さまと策定してきた「港北区地域福祉保健計画」が完成しました。港北区は、横浜市の中で約31万人が暮らす最大の区で、東京近郊のベッドタウンとして、また横浜の陸の玄関となる新横浜を抱えた活気あるまちです。このため、転出入者も多く、こどもも高齢者も多く暮らすまちです。

港北区の計画は、地域の実情を踏まえて、地域に密着した生活課題を解決できるよう、13の連合町内会を基礎単位とした地区計画を中心とした計画です。

この計画づくりにあたっては、福祉保健活動の関係者をはじめとし、自治会町内会、福祉保健分野以外の方など幅広い区民に参画いただきました。

また、行政としても積極的に地域に出向き、区民の皆さまとの対話の中から、地域の現状や課題を把握し、行政として担うべき役割を再認識することになり、この計画は、区民と行政が協働で福祉と健康のまちづくりを進めるという新たな関係づくりの第一歩を踏み出す計画となりました。

計画は完成しました。これからは、計画の実践に向けてスタートです。

区民の誰もが主役となって、自分たちの住むまちを暮らしやすくするために、みんなで手をつなぎあい、事業者や行政と協働して、できることから一つひとつ取り組んでいきましょう。そして、地域の人と人のつながりや活動する人たちのネットワークを広げ、地域の福祉力をみんなで高めていきましょう。

港北区地域福祉保健計画の策定にあたって

港北区地域福祉保健計画策定部会長 横山 幹彦

平成16年10月にスタートした計画の策定作業を無事終えることができました。部会では、グループインタビューや地域懇談会などで話し合われた、様々な立場からのご意見やご提案を計画に反映できるよう、14人の区民部会員が区民意見交換会や13地区で実施された地域懇談会などの場に参画しながら、また、部会員個々の経験や活動を通じて思考してきた意見を出し合いながら、港北区の地域福祉保健のニーズや取り組むべき課題について、話し合い検討してきました。

13地区別計画は、地域の基礎的なデータや地域で取り組まれている活動なども整理され、地区ごとの特徴を踏まえた計画となったのではと思っています。また、13地区計画を推進するために、港北区全体としての取り組みを区全体計画として策定することができました。

部会の中で常に議論になっていたことは、この計画への区民の関心と参画をどのようにムーブメントとしていくかということです。計画が、自分たちの生活と関係していることを知り、一人でも多くの区民が参加していただきたいこと。様々な活動団体がお互いの立場や役割を理解しあい、手をつなぎ、自分たちのまちが暮らしやすくなるために行動していける顔のみえる関係づくりを進めていただきたいことです。

すべての区民にとって、自分たちのまちが安心して暮らしやすいまちであってほしいという願いは、この計画を策定した根幹にあるものと同じです。計画の具体化に向けた取り組みは、私たちの日々の生活と直接結びついていくものだと思います。この計画が新たな福祉と健康のまちづくりを実現する第一歩となることを部会員一同心より願っております。